

タマネギベと病の発生に注意しましょう

タマネギベと病の病原菌は、土中の卵胞子によって苗床、定植後のたまねぎに感染します（一次感染）。その後、発病株に形成された分生子によって二次感染が起こります。気温15℃前後で曇雨天が続くと多発しやすくなります。

今後の1か月予報（2月15日気象庁発表）によると、気温は平年より高く、降水量は平年より多い予想のため、初発が早まる可能性があり、今後の気象条件では多発が警戒されます。適切に防除を行い、被害の発生を防ぎましょう。



写真1 発病株（赤円内）



写真2 発病株に形成された分生子

【防除対策】

1. 感染の拡大を防ぐため、ほ場をよく見回り発病株の早期発見に努める。発病株は速やかに抜き取り、ポリ袋等に入れ、ほ場外で適切に処分する。
2. 雨水が停滞すると本病が発生しやすくなるので、排水溝（明渠）の点検や整備を行う。
3. 農薬情報（表1）を参考に、定期的に薬剤防除を行う。なお、薬剤耐性菌の発生を防ぐため、FRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。

表1 タマネギベと病の防除に使用する主な薬剤

（令和6（2024）年2月15日現在）

農薬名	使用時期	希釈倍数	本剤の使用回数	FRAC コード
オロンディスウルトラSC	収穫前日まで	2000倍	2回以内	49、40
メジャーフロアブル	収穫前日まで	2000倍	3回以内	11
ジマンダイセン水和剤	収穫3日前まで	400～600倍	5回以内	M03
フロンサイドSC	収穫3日前まで	1000～2000倍	5回以内	29
ホライズンドライフロアブル	収穫3日前まで	2500倍	3回以内	27、11
シグナムWDG	収穫7日前まで	1500倍	3回以内	11、7
ドーシャスフロアブル	収穫7日前まで	1000倍	4回以内	21、M05
プロポーズ顆粒水和剤	収穫7日前まで	1000倍	3回以内	40、M05
ナレート水和剤	収穫14日前まで	800倍	3回以内	31、M01

病害虫情報発表のお知らせはX（旧ツイッター）「栃木県農政部 (@tochigi_nousei)」、農業環境指導センターホームページ (<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g64/index.html>) でもご覧になれます。

